

# こんなところにも気候変動の影響が！

海水温上昇により豪雪や豪雨が起きていますが、魚の生態系にも直接影響があるんですね。

## 「週刊つり太郎」が休刊へ

### 気候と海に異変、釣況読みにくく

県内唯一の釣り情報誌「週刊つり太郎」（北村東太編集長）が2月末発行で休刊する。天候や海洋環境の異変が釣況に影響して編集面で支障を来すようになったこと、出版コストの上昇などが主な理由。新型コロナウイルス禍の行動自粛も拍車を掛けた。実質的な廃刊で、インターネットのホームページ「つり太郎web」も閉鎖。今後は2015年から全国展開している釣り関連グッズの販売に専従する。

休刊は昨年夏に決断、既に誌上で発表した。「毎週の刊行は

印刷や配送などの経費がかさみ、近年は収支のバランスが取



週刊つり太郎の休刊について語る北村東太編集長

りづらかった。加えて新型コロナウイルス禍の自粛による取材、編集活動の制限が痛かった」と北村編集長。

さらに、休刊に至る最大の要因として、気候と海の異様な変化を挙げる。「温暖化による異常気象や海水温の上昇、海流の変動、プラスチックごみなどの海洋汚染が魚の生態系や釣果に大きな影響を与えている」と強調。

創刊当初の1980年代は釣りブームで、発行部数は最盛期で6千部近くあった。釣果も多

かったが、次第に減少。以前は年間を通して季節ごとに規則的だったタチウオやチヌなど魚種別の旬や釣果のパターンに大きなずれが起こり、編集計画にも不都合が生じるようになった。

「太平洋の黒潮の動きや水温の変動が豊後水道一带の釣果を左右し、夏の魚が秋や冬に釣れたりする。先が読みにくく、好釣果も一時的。週刊発行の意味が薄れてきた。情報収集は手取り早いインターネットで済ます人も増え、紙媒体として存続しにくい状態になった」と実情を明かす。

北村編集長は「休刊を発表後、読者や釣具店、遊漁船主たちから『やめないで！』『なくなるのは寂しい』などの声がたくさん寄せられた。継続発行をしたかったが、時代の流れに逆らえず、残念。最終刊までは全力を尽くす」と話している。

（今戸葉1）

週刊つり太郎は1983年7月に北村敏彦さん（故人）が創刊。県内の釣り人口拡大や技術とマナーの向上などに貢献してきた。2003年からは息子の東太さんが後を引き継いだ。現在の発行部数は約3千部。

×  
モ



2月末で休刊する「週刊つり太郎」